

◆荒尾市民病院までの移動支援について①

乗合タクシー導入に当たっての基本方針（荒尾市地域公共交通総合連携計画から抜粋）

路線バスを中心としながら、他の交通モードを組み合わせた最適で持続可能な地域公共交通体系の構築

利用者は年々減少しているものの、市内路線で1日当たり延べ700人以上が利用しているため、引き続き路線バスを基本としながらも、路線バスを維持するエリアとそれ以外の交通手段を導入するエリアとを区分し、地域特性に応じ乗合タクシーを導入し、路線バスと乗合タクシーのベストミックスによる地域公共交通を、効率的かつ持続的に構築する。

区 分	地域特性など
路線バスを維持するエリア	人口の集積が見られ、一定の利用者が見込まれ路線バスによる効率的な運行が可能なエリア
デマンド型交通を導入するエリア	人口の集積が見られず、路線バスの運行による更なる利便性の確保が難しく、代替手段による交通手段の確保の方が効率的なエリア

乗合タクシー運行区域に関する議論経過（H24本協議会）

「あらおシティモール以外で乗降できないのであれば、不便を感じる。」

「少なくとも、荒尾市民病院や荒尾市役所、荒尾駅などの公の施設での乗降を可能にすべきではないか。」



「路線バスとの競合を最小限にしなければ、路線バスが撤退せざるを得ない状況になる。」

「自宅玄関から目的地までの移動が可能になるので、現状の路線バスよりも利便性が向上するのではないか。」



合意事項

公共交通体系の中心は路線バスであり、バス路線との競合を最小限に抑えるため、あらおシティモール周辺の限った地点のみ乗り入れる。 ※乗合タクシーの拡大→路線バス・タクシーの縮小→利便性低下…

◆荒尾市民病院までの移動支援について②

主な要望(ニーズ)

乗合タクシーで荒尾市民病院まで直接行きたい。

- ・乗換えに対する不満(足・腰の痛み)
- ・路線バス廃止に対する負のイメージ
- ・料金は上がってもいい、という意見もあり(ただし、タクシー料金は高額。)



現状(ニーズの受け皿)・課題

- ・乗合タクシー運行地区から荒尾市民病院までは、バスセンターで1回乗り換える必要がある(乗合タクシー導入前も乗換えが必要)。 ※荒尾市民病院～バスセンターは1時間に5本程度運行している。
- ・市内全域で、荒尾市民病院まで行くのに乗換えが必要な地区は、平井・府本地区以外にも存在する。
(=路線バス運行地域との公平性)
- ・市内には、通院・通所のために送迎サービスを行っている病院も複数ある。
(=荒尾市民病院とその他の病院との公平性)
- ・要介護の認定を受ければ、通院等乗降介助のサービスを受けることができる。

アンケート調査などを行い、利用者のニーズ(必要な支援)を正確に把握する必要がある。

現状を踏まえたニーズの分析

対象者: 要介護には該当しないが、単独での移動が困難な高齢者で、移動に関し家族の送迎などのサポートを受けることが難しい方。

内容: 乗換えに対する不満(身体的要因、煩わしさ)、乗合タクシーの認知度不足、タクシー料金の負担感、...

具体的な対策の可能性(案)

【公共交通施策】

- ・病院を中心とした路線に再編(=全便市民病院に乗入れ)
 - ・目的別路線編成により通院に特化した路線の新設
 - ・乗継割引の導入
 - ・ノンステップバスの導入促進
- など

【福祉施策】

- ・タクシー料金への助成 ※対象者を限定
 - ・移動支援を担う地域への支援(車両の貸与・燃料費等助成)
 - ・外出、運動による介護予防効果の啓発
- など